

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071600518		
法人名	社会福祉法人平成福祉会		
事業所名(ユニット名)	かぐのみ苑湯浅グループホーム(さくら町)		
所在地	和歌山県有田郡湯浅町湯浅2032-1		
自己評価作成日	令和元年8月10日	評価結果市町村受理日	令和元年10月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和元年9月5日(木)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との関わりを大切にしています。当苑の夏祭りでの地域への開放や、近隣の市町村の催し物に必ず参加する事で、地域に溶け込んでいけるようになってきたと思います。
利用者さんには、各自の残存機能を生かせるように、掃除や洗濯物の干したりたたんだりを無理のない範囲で一緒におこなってもらっています。また、建物内にある菜園で野菜や花などを植えたりすることで、普段の生活に楽しみを見つけてもらえるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所はデイサービスや訪問介護の事業所が併設している2階にあり、特養も隣接している。職員は日頃から理念に沿ったケアを意識しており、地域の人々との関りを大切に、地域行事の参加や事業所に地域住民が訪問しやすいように取り組んでいる。また入居者の持っている力を最大限に活かすように入居者一人ひとり持っている力を見極め、食事の準備、盛り付け、片づけ、裁縫等継続できるように支援している。職員は明るく入居者に寄り添い、やりがいをもって努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着を踏まえた理念を毎朝唱和する事で実践につなげている	事業所の理念は職員がそれぞれに意見を出し合い作り上げられた理念である。その為職員一人ひとりが理念を理解し、日々のケアに反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りやイベントに参加したり、苑の夏祭りは利域に開放されている。また、教育委員会と共同でふれあい教室を開催し町内の小学生と交流している。	地域のスーパーに買い物に出かけ、地域の方と挨拶を交わしたり、ボランティアの訪問、中学生の職場体験の受け入れなど日常的に交流をもっている。またウォーターサーバーを設置し、地域の方が立ち寄り休憩してもらえるような環境も整えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に4回季刊誌を発行し、苑内の行事での活動の様子や介護・生活に役立つ記事を掲載し、地域に発行することで認知症に理解や支援を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、苑内の行事や入退者状況を報告し、意見を聞いたりしてサービス向上に活かしている。	会議には理事長、健康福祉課の職員、民生委員、入居者家族などが参加されている。出席者の方たちから意見が出やすいように具体的に課題を提案するなどの工夫をし、その意見をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターと入所の相談や入所後の経過報告を行う等、連絡を取るようになっている。	地域包括支援センターからは困難事例の相談や緊急のショートステイの受け入れの相談があり、事業所からは現状報告するなど積極的に連携を図っている。また生活保護の方が入居されているときにはケースワーカーと連携を図り情報を共有している	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束について勉強会を行い、実践に取り組んでいる。立地環境面や家族の希望を優先し、エレベーターを安易に利用できないようにしている。	毎月、「拘束会議」を開催し日々のケアの中で言葉の拘束などをしていないか話し合いの機会をもっている。帰宅願望の強い入居者には一緒に出掛けたり、さりげなく後ろをついていくなど抑制しないケアに取り組んでいる	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について資料を配布し、ケア会議で学習したり、外部研修に参加した職員の発表などで学ぶ機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で学んでおり、必要時に制度を活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時、改正時には家族に十分な説明を行い、理解・納得して利用していただけるように取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から関係作りに努め、要望や意見を伝えてもらえるように配慮している。また、外部への苦情窓口を設け、苑内には投書ポストを設置している。	日ごろより家族の訪問時には職員から声を掛けるなど話やすい雰囲気をつくるように努めており、訪問できない家族には電話や季刊誌を郵送するなどその都度意見を伺うようににも努め、意見・苦情を表せる機会を設けている。また重要事項説明書には外部の苦情窓口の連絡先も記載されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティングや月1回の定例会議で意見や提案を聞く機会を設け反映されている。	職員は日ごろより施設長や管理者等には意見や提案をしやすい関係性であり入居者の状況によって勤務時間の変更や入居者の身体状況に応じて浴室にはリフト浴を設置するなど職員の意見や提案を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課を実践し、昇給や賞与に反映。個々に応じた労働条件で働けるよう就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な勉強会、新人研修を受ける機会を確保。現場において職員の力量に応じた指導を行っている。また、法人外の研修資料を掲示しており、受講できる機会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームへ季刊誌を配布し情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人の要望等を確認し、よい関係作りができるよう取り組んでいる。また、希望者には見学をして頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安なく利用して頂けるように要望等を聞く機会を持ち、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況や本人の気持ちを尊重してデイサービスやショートステイサービスを利用する事で徐々に介護サービスに慣れて頂いてから入所に至るケースもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、入所者様から学ぶことも多く、共に支えあい良い関係が築けるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事参加の呼びかけ、通院や外出支援、面会など各家族の可能な範囲で協力してもらい、本人を支えていく関係作りができるよう取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の催し物への参加や家族支援での外出も積極的に行われている。また、携帯電話を所有している入居者は自由に家族や馴染みの方とコミュニケーションが図れており、関係が途絶えないように支援している。	家族の協力のもと、自宅に帰ったり、家族と外食に出かけたり、親戚の方の訪問などがある。また夏祭りを開催することで家族や地域の方の参加があり、馴染みのある人達との関係が継続できる場にもなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性を把握し、席や作業場所、外出時の組み合わせに配慮して入居者同士が関わり合い支えあえるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で退苑になった場合には、必要に応じて他サービスに繋げられるよう支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や意向の把握、また思いを表すのが困難な方は日々の暮らしの会話の中で要望を推測し、その人らしい暮らしを続けられるよう努めている。	意思表示が困難な入居者には家族の協力を得て作成したセンター方式のアセスメントを活用したり、職員や家族からの意見を聞き希望や意向の把握に努めている。また昔話しくからも入居者の思いを把握し、職員間で話し合う機会を持ちその人らしい暮らしが続けられるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメント用紙を活用し、入所前に家族に記入してもらったりし、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の状態や気付きなどは、センター方式のアセスメント用紙を用いて記録しており、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	更新時や必要時に職員間でカンファレンスを開催したり、本人や家族、担当医の意見を参考にした介護計画を作成している。	月1回のケア会議には職員間で話し合いを行いモニタリングを行っている。また更新時や体調の変化があった時には本人、家族の思いや意向を聞き、必要に応じて医師や訪問看護師の意見も取り入れ介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を記入し、職員間で共有しながら実践や介護計画の見直しに反映できるよう取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院援助や行事等で苑の車を使用し外出支援を行ったり、その時々ニーズに対応できるよう柔軟なサービスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町や区の行事への参加や小中学校の生徒との交流、実習生の受け入れやボランティアの慰問、消防や警察等様々な地域資源と共同できるよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医にくわえて、事業所の協力医療機関も選択できるようにし、適切な医療を受けられるよう支援している。	入居時に事業所の協力医療機関に変更する場合はかかりつけ医より情報提供を頂き、受診時には職員より日頃の様子を口頭で伝え適切な医療を受けられるように支援している。また他科受診をする際は家族の協力も得て、職員が付き添い入居者の状態を口頭で伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制をとっており、地域の訪問看護と協力し適切な医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族に経過を問い合わせたり、面会に行き状態を確認し、主治医と相談の上 早期に退院できるよう取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの経験はしていないが、重度化した場合や終末期の在り方について入所契約時に説明を行い、入所後も本人や家族の意向に沿えるよう支援している。	事業所は看取りの体制は整えており入居時や状態の変化があった時には主治医を交えて家族とその都度話し合いをしている。また職員は訪問看護師より「看取りについて」の研修も受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成しており、すべての職員が対応できるよう勉強会や救急講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。また、災害時に地域との協力関係を構築する取り組みに努めている。	併設する特養などと合同で年2回昼夜を想定し消防署の協力を得て避難訓練を行っている。また事業所は地域の避難場所として受け入れ体制を整えており、備蓄として水や米、食料品、おむつなどを準備している。事業所は地域住民に理解を得るため、地域に季刊誌を配布したり、区長会に参加するなど協力関係を構築する取り組みを行っている。	地域住民と協力関係を構築する取り組みは行っているが具体的な協力関係までには至っていない。地域住民からの協力が得られるように具体的な行動を取り続けることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の状況を見ながら、家族の了解を得て愛称で呼ばせてもらっている入居者もいる。また、ケアの内容が尊厳に直結する場合は人格を尊重し周囲に気づかれない方法でスタッフ間で連絡を取り合い支援している。	入居時は姓で呼んでいるが入居者の様子を見ながら本人にとって理解しやすい呼称で家族の了解を得て呼んでいる。またケアの中で職員が発した言葉かけが入居者のプライバシーを損ねるような場合は職員間で注意し合い、誇りやプライバシーの確保に努めている。入居者の個人情報については必要時以外は口外せず、文章等はカギのかかる場所に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を大切にし、自己決定ができるような場面づくりをこころがけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日の状態を優先し、その人のペースに合わせた暮らしを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力のもと、好みの恰好ができるように季節ごとの衣類を持って来て頂いておしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好を把握し、代替品や形態の変更により食事が楽しみなものになるよう支援している。また、できる力を見極め盛り付けや片付けなどを一緒に行っている。	昼夕食は栄養士が管理した食事が提供されているが朝食はそれぞれが好む粥、茶粥、パンなどを提供している。事業所には菜園がありそこで収穫された野菜が食卓に並んだり、正月にはおせち、節分には巻きずし行事食などが提供され入居者は食事を楽しむことが出来ている。また食事の準備や盛り付け、後片付けなど入居者も共に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立で栄養が確保できるように支援している。また、摂取量の把握に努め栄養バランスに偏りのないように注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりにあった口腔ケアを行っている。希望者には週1回の歯科衛生士による口腔ケアを受けていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンの把握に努めている。また、一人ひとりに合った排泄方法で、できる限り自立に向けた支援をしている。	入居者が自分でトイレに行きやすいようにローカには大きくトイレの場所がわかるように表記され、入居者をトイレに誘導するときはさりげない声かけを行うなどトイレでの排泄を支援している。また排泄チェック表を活用し、入居者の排泄パターンを把握することで失禁が無くなりトイレでの排泄が出来るようになった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食前に体操をしたり、飲食物の工夫をしたりしている。また、緩下剤の服薬で予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴チェック表を使い入浴間隔が空きすぎないように配慮し、一人ひとりのタイミングに合わせた入浴を支援している。また、できる限り入居者と同性介護者が対応するように配慮している。	入浴は週2～3回の午前、午後と本人の希望に沿って入ることができ、重度な入居者にはリフト浴で対応し安心して入浴することが出来ている。また柚子風呂や菖蒲湯など季節感が感じられる工夫も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じて休息したり睡眠がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の説明書ファイルや医療ノートを活用し、服薬支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に応じた役割を提供したり外出したりすることで、楽しみ事や気分転換につながるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やドライブに外食、一時的な帰宅など家族の協力も得ながら出かけられるように支援している。	気候が良い時には散歩や菜園での日光浴 買い物など気分転換が出来る機会を持っている。また季節の行事として、家族の協力を得て近隣の公園へ花見に出かけたり、有田川のこいのぼりを見に行くなど戸外へ出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や能力に応じてお金を所持して頂いたり、使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に苑の電話を使っていたり、携帯電話を所持されている入居者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや自室の目印、季節の花を飾ったり、手作りのカレンダーや壁紙を掲示している。音・光・温度などにも不快で混乱を招くような刺激がないように配慮している。	リビングは大きな窓から光さし、ローカには季節を感じられる壁紙や作品が飾られている。また日めくりカレンダー利用し日付の確認ができるようにしている。テーブルには気の合う入居者同士が席を並べテレビを見ながら話をするなどゆったりと過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者同士で談話や作業の出来る場所を作り、好みのテレビ番組等を見ていただいたり、思い思いに過ごしていただけるよう取り組んでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に新しい家具等を持ち込まれる方もいられるが、自宅で長年使い慣れた家具や好みの物を持ち込まれる入居者もあり、どちらでも居心地よく過ごせるよう工夫している。	入居者が自分の部屋がわかるように大きな字で名前を表記したり、自室にはアルバムやテレビ、タンス、また自宅で使用していた物を持ち込みされなど居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに合わせた居室の環境づくりや、トイレや居室の目印など安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		